

氷川神社  
社報 第二十一号

# 武蔵一宮





# 氷川風土記

当社の公式Instagramとノートでは民俗学者山崎敬子氏の文章に写真家の工藤裕之氏の写真を加えたものを氷川風土記として連載しております。

令和2年4月11日の第1回目から、日曜日を基本として配信し、100回の節目を迎えました。

第一回	由来説明	第三十六回	百味膳	第七十回	建築の歴史
第二回	茅の輪神話	第三十七回	変わらない祈りのために	第七十一回	イナダヒメノミコト
第三回	桜	第三十八回	言葉(ことば)	第七十二回	玉串と天岩戸
第四回	樹木とスサノオの神話	第三十九回	北澤楽天と一の鳥居	第七十三回	武蔵国
第五回	八雲紋	第四十回	絵馬	第七十四回	大宮ガチャダマと氷川神社
第六回	道饗祭	第四十一回	的の神事	第七十五回	スサノオノミコトの
第七回	おみくじ	第四十二回	変わらない祈りのために	第七十六回	剣から生まれた女神
第八回	八岐大蛇退治	第四十三回	神社建築	第七十七回	抜穂神事と稲刈り
第九回	蛭放生祭	第四十四回	祈年祭	第七十八回	食物誕生とスサノオノミコト
第十回	大祓と茅の輪	第四十五回	疫病	第七十九回	神様への祈りと感謝
第十一回	粽とスサノオノミコト	第四十六回	鳥居	第八十回	七五三
第十二回	本年の大祓式につき	第四十七回	ひょうたん池	第八十一回	オオトシノカミと
第十三回	麦	第四十八回	明治天皇御親祭	第八十二回	ウカノミタマノカミ
第十四回	お酒とお社	第四十九回	五十年祝祭と洪沢栄一	第八十三回	大湯祭と火
第十五回	楠	第五十回	浦安の舞と祈りの心	第八十四回	大宮の盆栽
第十六回	勅祭	第五十一回	鎮花祭	第八十五回	参道と未来
第十七回	東游	第五十二回	郷神楽	第八十六回	新嘗祭
第十八回	魚	第五十三回	神饌	第八十七回	大湯祭がはじまります
第十九回	鯉 その1	第五十四回	六社	第八十八回	大湯祭と持続可能な社会
第二十回	鯉 その2	第五十五回	水	第八十九回	地名
第二十一回	氷川丸と東京五輪	第五十六回	ヤマトタケル	第九十回	祭礼と大祓
第二十二回	稲田姫命	第五十七回	タケノコ	第九十一回	箸
第二十三回	大己貴命	第五十八回	須佐之男命と大己貴命	第九十二回	神楽
第二十四回	戦艦武蔵	第五十九回	疫神と生活	第九十三回	白鳥とヤマトタケルノミコト
第二十五回	抜穂神事	第六十回	祝詞と言霊	第九十四回	節分
第二十六回	コロナウイルス感染症	第六十一回	大祓	第九十五回	スサノオノミコトと剣
第二十七回	収束に向けて	第六十二回	天王信仰と祇園信仰	第九十六回	鷹つれづれ
第二十八回	氷川参道	第六十三回	天叢雲剣(草薙剣)	第九十七回	祈年祭
第二十九回	氷川神と歴史	第六十四回	明治十八年の節目	第九十八回	富くじ
第三十回	氷川講	第六十五回	神楽土鈴	第九十九回	さとかぐらの話し
第三十一回	明治祭	第六十六回	ニニギノミコトの父神	第一〇〇回	暮らし
第三十二回	暦	第六十七回	アマテラスとスサノオの誓約		スサノオノミコトへの祈りの
第三十三回	檜	第六十八回	歴史人たちとの縁		心は全国に
第三十四回	武蔵家刀自	第六十九回	勅書と祈りの心		
第三十五回	大湯祭				
	宇迦之御魂神				

Instagram




ノート

水川風土記をまとめて御覧になる方は、noteでの閲覧がおすすめです。右のコードからお進み下さい。

[氷川神社note]

URL : <https://note.com/ichinomiyahikawa>



祭事暦

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

一月 一日 歳旦祭

二日 日供始祭

三日 元始祭

七日 昭和天皇遙拝式

十五日 献詠祭

(兼題 窓)  
成人祭

二月 一日 月次祭

三日 節分祭

七日 的祈事

十日 初午祭(稻荷神社)

十一日 紀元祭

十五日 献詠祭

(兼題 紀元節)

十七日 祈年祭

二十三日 天長祭

三月 一日 月次祭

十五日 献詠祭

(兼題 白酒)

郷神楽

二十一日 春分祭

紀元祭

二月十一日は全国の神社で紀元祭が執り行われます。この日は十六の祝日の一つで「建国をしのび、国を愛する心をやしなう」建国記念の日でもあります。戦前は紀元節の名で知られ、『日本書紀』に神武天皇が畝傍の檀原で即位したと伝える日に基づいて明治五年(一八七二)十一月十五日の太政官布告により制定された国祭日でした。「紀元節」は文部省唱歌として明治二十六年から全国の学校で歌われておりました。

戦後、GHQの指令により廃止されましたが、国民の大多数の熱願により、サンフランシスコ講和条約後の昭和四十二年に祝日となりました。尚、皇紀は日本の国暦で神武天皇御即位の年を紀元として、本年は皇紀二六八二年にあたります。

祭典前には神武天皇を御祭神とする檀原神宮(奈良県)を遙拝、祭典は前日の雪が屋根から音を立てて落ちる中、厳かに執り行いました。



檀原神宮遙拝



紀元祭 祝詞奏上

紀元節

作詞…高崎正風  
作曲…伊沢修二

一、雲に聳ゆる高千穂の

高根おろしに草も木も

なびきふしけん大御世を

仰ぐ今日こそたのしけれ

二、海原なせる埴安の

池のおもより猶ひろき

めぐみの波に浴みし世を

仰ぐ今日こそたのしけれ

三、天つひつぎの高みくら

千代よろずよに動きなき

もとい定めしそのかみを

仰ぐ今日こそたのしけれ

四、空にかがやく日のもの

よるずの国にたぐいなき

国のみはしらたてし世を

仰ぐ今日こそたのしけれ

社頭往来

正月三が日

令和四年の正月は穏やかな陽気に恵まれ、一日は約六十万、二日は約四十万人、三日は約四十万人で、三が日の初詣参詣者は約百四十万人でした。一日の大宮鷹職組合によるはしご乗りは飾り纏いとして実施されました。二日、三日には第一駐車場に埼玉県赤十字血液センターの献血バスが運行、三日には舞殿にて大宮能楽研究会による謡初めが行われました。



氏子総代初祈祷祭

一月十三日午前十一時、氏子総代・評議員約八十名参列のもと新年の初祈祷祭を行い、皆様の無病息災と御活躍を祈願致しました。



防災訓練

一月二十二日午前九時より大宮消防署の指導のもと、放水訓練や消火器を用いた消火訓練などを行いました。



婚礼相談会

一月二十九日、三十日午後一時より四時まで社務所において、婚礼相談会が開催され、多くの方がご来場されました。



大宮二十景入賞作品展示

二月七日より十四日まで大宮区主催の大宮二十景絵画コンクールの入賞作品二十四点の廻廊展示を行いました。



下水管工事実施

二月八日より境内地に埋設しております、さいたま市所有の下水道管の撤去工事を実施しております。工事は完了は九月頃を予定しております。



大宮アルデイージャ必勝祈願

二月二十四日午後四時、NACK5スタジアム大宮でのホームゲーム前にあたり、大宮アルデイージャの佐野秀彦代表取締役社長、秋元利幸強化部長、霜田正浩監督、小野雅史選手、西村慧祐選手が玉串を捧げ、今期の必勝を祈願しました。



写真提供：大宮アルデイージャ

春の婚礼展開催

二月二十七日、春の婚礼展としてアイテム展示会並びに新規御相談会及び模擬結婚式を執り行いました。今後の開催につき

ましては、ホームページやインスタグラムを御覧下さい。



春の特別紙朱印「花しずめ」

三月十九日より春の特別紙朱印「花しずめ」を授与開始、三月三十日に終了致しました。



稲荷神社鳥居奉納奉告祭

三月二十七日午後一時、稲荷神社にて今般鳥居の奉納を頂きました吉田緑建株式会社代表取締役吉田和彦様、神田運輸株式会社様、株式会社みどり建設様参列のもと、奉告祭を執り行いました。



(公社)埼玉中央青年会議所主催「HARENHOHI」門出を祝して

三月二十七日、公益社団法人埼玉中央青年会議所の主催で成人式や入園、入学、入社など門出を迎える方々をお祝いするイベントが開催されました。



成人の儀



灯籠流し(白鳥池)



和傘の参道 (3/21~3/27)

大宮法人会青年部会主催

松井守男画伯「本物のアート体験」

三月二十九日、大宮法人会青年部会の主催で五十人の小学生を対象とした、松井守男画伯によるワークショップが開催されました。



### 参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様  
の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感  
謝申し上げます。  
(五十音順、敬称略)

- ・阿含宗埼玉道場
- ・大宮明るい社会づくりの会
- ・住友生命保険相互(株)
- ・パーソルテンプスタッフ(株)
- ・(さいたま市)ジョブアシスト事業
- ・みずほ証券(株)大宮支店
- ・武蔵コーポレーション(株)
- ・(株)ユニテック



みずほ証券株式会社大宮支店様



阿含宗埼玉道場様



武蔵コーポレーション株式会社様

### 三月の奉納献華



- 豊花俊 岩波理 岩波理 豊花俊
- 谷智山 草谷沖 草谷沖
- 藤松会 古流松 古流松
- 池坊草月流 池坊草月流
- 岩波理 岩波理
- 小華典 小林華 小林華
- 高橋典 高橋典
- 竹下尚 竹下尚
- 桐生一 桐生一
- 栗原春 栗原春
- 古流松 古流松
- 桂古流 桂古流
- 草月流 草月流
- 正風流 正風流
- 春草流 春草流
- 一光会 一光会

※一、二月は社会情勢に鑑み中止

### 消毒液奉納御礼

この度、  
興和株式会  
社様より新  
型コロナ感  
染症対策と  
して、消毒  
液の御奉納  
を頂きました。  
御篤志  
に感謝申し  
上げます。



### 正式参拝及び諸会議

(敬称略)

一月 六日	靖国神社宮司山口建史
九日	衆議院議員枝野幸男
十日	参議院議員熊谷裕人
十日	さいたま市長清水勇人
十一日	一万人のお宮奉仕
二十五日	埼玉県神社庁
二月 十二日	北足立支部役員会総会
十二日	(株)グレイトティチャー
十三日	歴史への旅
十四日	武蔵菊花会理事会
十五日	(株)小西美術工藝社
十五日	代表取締役
三月 七日	デリビット・アトキンソン
十三日	大宮区内郵便局局长
十三日	責任役員会
十三日	敬神講社理事會
十三日	氏子総代会並評議員会
十三日	武蔵コーポレーション(株)
十三日	武蔵菊花会
十四日	武蔵菊花会総会
二十日	大宮東地区社会福祉協議会
二十日	ポリスカウトパー隊
二十七日	立正佼成会大宮教会
二十九日	(公社)埼玉中央青年会議所
三十一日	大宮法人会
三十一日	田母神敏雄

正式参拝は本殿で行う特別参拝・団体  
参拝で事前の申し込みが必要です。一般  
の個人での申し込みは出来ません。  
尚、本殿での単独祈禱は事前予約制で  
承ります。

- 一、初穂料 十万円以上
- 一、願 種 一種類のみ
- 一、人数 八十名まで
- 一、玉串拝礼 代表者三名まで

連絡先 氷川神社社務所  
電話 ○四八・六四一・〇一三七

## 氷川神社敬神婦人会六十年の歩み

当社の敬神婦人会は、昭和第二期の御改修を機に、神社の翼賛団体として、昭和三十七年に結成されました。同年の皇居拝観、明治神宮、靖國神社正式参拝の折、先代の東角井光臣宮司が初代会長の境喜勢さんに御依頼した事に始まり、九月には大宮市長、全議長等の来賓、また会員約百名出席のもと発会式が執り行われました。

当会は神社神域において清い心を求めると共に会員相互の親睦と婦徳の涵養に努め清く明るい世の中をつくる事を目的としており、その実現の為に神社の祭典行事への参加・参列、参拝者の接遇、各地の著名神社への参拝・見学を行い、見分を広め、全国敬神婦人会にも加盟して社会奉仕の一端に携わって参りました。

熱心な会員の皆様には進んで奉仕活動に御参加頂き、会員は五三〇名を超え、いよいよ本年は六十年の節目を迎えました。この六十年の内には昭和四十二年の昭和天皇皇后両陛下の行幸啓、平成五年の現在の上皇上皇后両陛下の行幸啓があり、婦人会の皆様には活動内容の一つともなっております国旗小旗を手に御奉迎頂きました。

コロナ禍となつてからは、活動が著しく制限され、記念式典や研修旅行を行う事が出来なくなつております。この長い冬が終わり、一陽来復の春となりましたら一層の御活躍されます事と会の益々の隆昌、会員皆様の御健勝を御祈念申し上げます。



昭和天皇皇后両陛下奉迎



上皇上皇后両陛下奉迎



湯茶接遇



国旗小旗作り



研修旅行

# 神宮大麻頒布一五〇周年に寄せて 御神札とは

## 御神札について

令和四年は、伊勢の神宮の御神札である「神宮大麻」が明治五年より全国の御家庭にお頒ちされるようになってから一五〇周年にあたります。御神札やお守りなど、身近であっても説明すると難しいものです。今号では御神札について御説明致します。

神社によって御神札の種類は、材質も紙・木・布・神木を用いた細工物・石など、形も長方形・剣形・箱形など様々です。

その起源は、神宮(伊勢の神宮の正式名称)の神職であった御師が配布した御祓大麻であるといわれています。大麻は「おおぬさ」とも読み、お祓いに用いる祭具を意味します。御祓とは中臣祓という祝詞を百度・千度・万度奏上する祈禱の事で、それに用いた大麻を箱に収め紙に包み、御祈禱の証として配られておりました。起源は不詳ですが、鎌倉幕府の事績を記した『吾妻鏡』に「一千度御祓」の祈禱の記載があるので、御祓大麻の発生はさらに遡るであろうと考えられます。

御師は全国各地で祈禱を行っていたため、江戸時代後期には全国の約九割の世帯が御祓大麻を受けていたと考えられています。

時代が下るにつれ御祓大麻が簡素化したものが神宮大麻で、全国の神社ではこれに倣い、神社名・祭神名や祈願内容を記載、或いは祭神や祭神の使いである眷属の姿などが描かれた御影が頒布されています。御守は御神札を小型にし、携帯できるようにしたものです。

現在の神宮大麻



御祓大麻



写真提供：神宮司庁



祈禱神札の版木

(右)官幣大社水川神社祈禱神璽  
(左)武蔵総鎮守官幣大社

水川神社太々神楽祈禱神璽



須佐之男命の版木

水川神社建速須佐之男命  
武蔵國一宮



大己貴命の版木

土農工商守護神 角井出雲守護書  
名神大月次新嘗 祭主大宮神司  
大日本國造 大己貴大神  
東國総鎮守  
武蔵國一宮 水川本社

## 地名の由来となった氷川神社の分社

氷川神社が鎮座された事により町名の由来となりました分社を御紹介致します。

### 奥氷川神社

**鎮座地** 東京都西多摩郡奥多摩町氷川一七八番地

**由 緒** もと奥氷川大明神と称し、相殿に諏訪大明神を祀る。鎮座起源は景行天皇五二年、日本武尊東征の時に、陣中の守護神として素盞鳴尊、大己貴命を此の地に祀ったのが創始という。

光仁天皇の宝亀二年(七七二)奇稲田姫命を合祀、清和天皇の貞観二年(八六〇)、簸川修理大輔土師行基これを再興して社名を奥氷川大明神と改め、この地を氷川と名付けた。埼玉県旧大宮市の武蔵一宮氷川神社に対して、入間郡三ヶ島に中氷川神社があり、奥多摩の氷川神社を奥氷川神社と称した。別に上氷川ともいう。以後奥氷川を公称し、細川頼春の臣村野忠一が此の地に来訪、その子武清が文和三年

(二三五四)祭祀を行って以来、その裔奉仕し寛文八年(一六六八)四月、代官曾根五郎左衛門が本村查繩のさい八畝一〇歩を除地した。現社殿は元禄年間(一六八八・一七〇四)の造営という。明治二年奥氷川神社と改め、同六年十二月村社に列格。  
**獅子舞** 平成二十九年十月十五日には明治天皇御親祭百五十年を奉祝し、獅子舞を奉納頂いております。



御祭神  
素盞鳴尊 奇稲田姫命 建御名方命



明治天皇御親祭百五十年祭の奉祝行事として奉納された獅子舞



境内の三本杉



奥氷川神社社殿

## 地名のもとになった分社

上記の奥氷川神社の他にも町名の由来となった分社がございます。

**草加市氷川町の草加神社**は天正年間(一五七三・九二)に勧請され元来、氷川神社と称し南草加村の鎮守として祀られました。明治政府の神社合祀政策に従って十数社を合祀し草加神社と改称致しました。

**戸田市氷川町の新菅の氷川神社**は正長二年(一四一九)に勧請されましたが、別当寺の金剛院は宮本坊長順が靈夢によつて創建したと伝えられています。

**板橋区氷川町の氷川神社**は元久三年(一一〇六)に武將の豊島経泰により、練馬区氷川台の氷川神社は長禄元年(二四五七)に同じく武將の渋川義鏡により勧請されています。

**東久留米市氷川台の氷川神社**は起源不詳ですが、門前村の鎮守として勧請されています。

地域の氏神社紹介 ③

氷川神社は武蔵国の一宮として広く守護しておりますが、当社以外にも古くから「村の鎮守」、地域の氏神様として祀られている神社がございます。

菅原神社

鎮座地

さいたま市見沼区

蓮沼一〇二九

由緒

当地はかつて見沼から続く低地が入り込んだ所で、蓮の生じる沼があったことによる。

創祀は見沼に漂っていた天満天神座像を村人が社殿を建てて祀った事に由来する。十二月十日の大湯祭の特殊神饌である長芋は当地から奉納されるもの。



御祭神 菅原道真公

蓮沼神明神社

鎮座地

さいたま市見沼区

蓮沼二九八

由緒

当地は古く、蓮沼の中でも南部の猿ヶ谷戸と呼ばれた地域で、神社の創祀は往古村人が神宮の御師より受けた御祓大麻を祀った事に由来する。社殿は明治十三年造営。十二月十日の大湯祭の特殊神饌である長芋は当地から奉納されるもの。



御祭神 天照大御神

多子稲荷神社

鎮座地

さいたま市大宮区

土手町二一九七

由緒

勧請の時期は定かではないが、京都の伏見稲荷大社の分霊を祀る。現在の本殿は天保四年（一八三三）に建立したものの、『風土記稿』に「多子稲荷」の記載があるため、古くからの名称であるが、その由来は伝わっていない。



御祭神 倉稲魂命

風渡野天神社

鎮座地

さいたま市見沼区

風渡野二〇四

由緒

『風土記稿』に当地が「見沼代用水を引けども早損あり」とあり天水場であった事から、もとの祭祀は降雨を祈るものであったと考えられる。菅公千年記念碑の他、多くの地口灯籠が並び、拝殿には多くの拝み絵馬や額が奉納されている。



御祭神 菅原道真公

夏越大祓の御案内

・ 神事日程 六月三十日 午後一時〜  
・ 斎場 楼門内舞殿



特別紙朱印  
「茅の輪くぐり」  
500円



茅の輪守(小)  
1000円



茅の輪守(大)  
1000円



・ 人形は1枚につき一人の氏名をお書き下さい。息を吹きかけ身を撫でて初穂料を添えて納めて下さい。

6月18日授与開始予定

第四十一回大宮新能



大宮新能は公益社団法人さいたま観光国際協会主催で、例年五月の最終週の金曜、土曜に開催されており、昭和五十七年の東北・上越新幹線の開業を記念して始まりました。本年は楼門内、舞殿にて新能を開催致します。

五月二十七日(金)

十九時〜

五月二十八日(土)

十九時〜



購入についての詳細はこちら

【お問い合わせ先】  
(公社)さいたま観光国際協会  
048-647-8339 (土・日・祝休)

第二十二号は七月十五日発行予定です

蛭鑑賞会のお知らせ

例年、6月には氷川蛭の会の皆様により蛭の放生が行われております。コロナ禍の二年間は鑑賞会を中止し、放生祭を行い、会員のみでの放生を行っております。本年の鑑賞会につきましては、情勢をみながらの開催になります。実施の可否は、5月末にホームページで御案内致します。



特別紙朱印「ほたる」(500円)  
5月14日授与開始予定

Home Page button with QR code

Instagram button with QR code

Twitter button with QR code